

平成 19 年度ホタテガイ採苗情報（第 1 報）

平成 19 年 4 月 25 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「大型のラーバが確認されています。」

1 ホタテガイ生殖腺指数の推移（唐丹湾）

生殖腺指数の変化から、産卵は 3 月下旬以降に始まったものと考えられます。

今年の産卵は、例年とほぼ同じ時期に始まり、その後一気に進んだものと考えられます。

◎生殖腺指数

$$= \text{生殖腺重量} / \text{軟体部重量} \times 100$$

2 ラーバの出現状況（4/24、唐丹湾）

ホタテガイラーバの出現数は、200 μm 未満が 17 個/トン、200 μm 以上が 6 個/トンでした。付着間近の大型個体は 2 個/トン確認されています。

なお、調査時の水深 10m 層の水温は 9.3℃で、平成 9～18 年の平均値より 1.4℃高い値となっています。

3 試験採苗器による付着稚貝調査

宮古漁協、大槌町漁協および広田湾漁協が実施した調査では、各調査点で 7～38 個/袋の付着稚貝が確認されています。

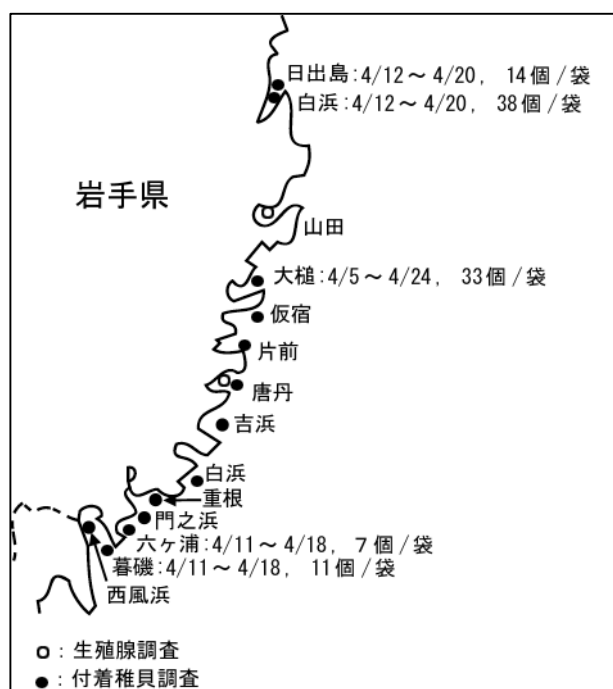


図 調査点と付着稚貝調査結果

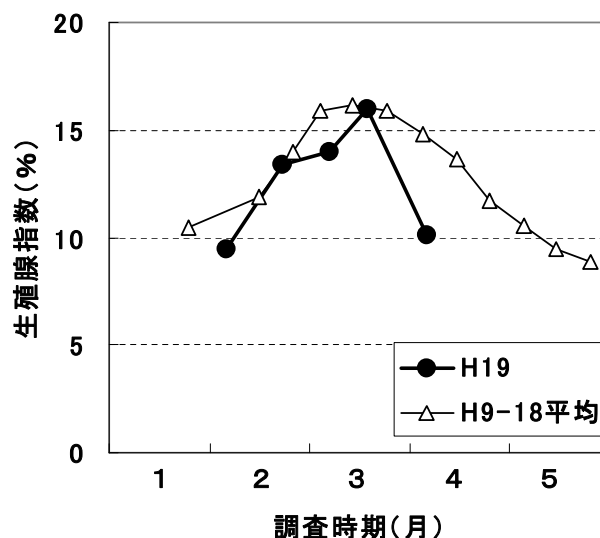


図 生殖腺指数の推移(唐丹湾)

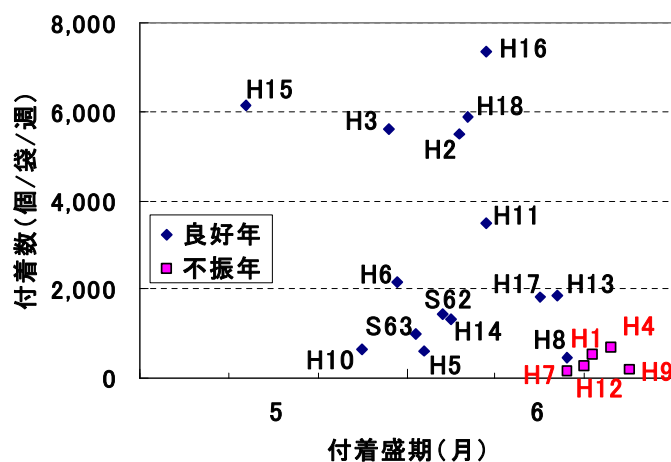


図 付着盛期と付着数の関係(唐丹湾)

県中南部では、親貝の産卵とラーバの出現の状況が、平成元年以降で付着盛期が最も早かった平成 15 年のそれと類似しています。

さらに、水温も高めに推移していることから、採苗器の投入適期が早くなる可能性があります。

今後の情報には、十分に注意してください。

次報は、5 月 2 日に発行する予定です。